

＜第 28 回 日本マクロエンジニアリング学会（JAMES）年次研究大会＞

日 時 ; 2013 年 2 月 9 日（土） 11 時～17 時
場 所 ; 東京大学本郷キャンパス山上会館会議室 201 及び 202
<http://www.sanjo.nc.u-tokyo.ac.jp/sanjo/contact/>
共 催 ; 文明システムズ・地球環境・プロジェクト研究会
日本マクロエンジニアリング学会（JAMES）
参 加 費 ; 会員 2,000 円; 一般 6,000 円 (+懇親会@会議室 002:3,000 円)
参加希望者は 1 月中旬に事務局宛、Eメールにてご連絡下さい。

今回の研究大会の中では、講演セッションに続き、参加者同士の交流を深め、創発を促すためのセッションも設けます。参加ご希望の方は事前に末尾の事務局までご連絡ください。

1. 開会挨拶 会長 新田 義孝 最優秀論文賞表彰 11:00～11:10

2. 基調講演 マクロエンジニアリング学会顧問 藤田 慶喜
「最近の日本企業の経営上の課題-国際活動から感じていること-」
11:10～12:10 (発表 50 分間+質疑応答 10 分間)

講演要旨

世界は今大きく変動をしている。世界的経済変動に、最近の政治指導者の交代などが重なって重層的な変化が起きている。第二次大戦後の米国の指導的立場が弱まり、EU の統合の成果が発揮できずにいる。日本も頻繁な指導者交代を余儀なくされ、東日本災害と原発事故などによる産業力の低下のほか国際外交力の低下が見られる。更にこれまで元気であった中国、インド、ロシアなど BRICS 諸国も教育度向上などによって、その市民社会全体のまとまりを従来手法では得られない状況が生じてきている。Internet の発展によりもたらされたジャスミン革命も、宗教勢力と世俗勢力同士の期待から遠いのが現実である。

日本は地政学的に苦しい位置に存在する。西洋式民主主義まで成熟していない国、個人独裁色の強い国など、社会的政治的立場が異なるに国に地理的に接しているながら、日本自身は西欧民主主義を基盤としているだけにその接点での相違は大きい。その中で、円滑なる運営をしなくてはならない。

筆者は上述した国際経済的環境の中になって、資源に乏しい日本の産業が持続的に活動するには、上記 handicap を克服しながら、伝統的叡智を復活させ、国際社会に貢献する道を選ぶことしか生きる道は無いと信じている。又それが将来の国際社会において日本が先行モデルになるべき存在であり、その為には、日本人が他国市民以上に再び大きな挑戦と努力をしなければならない時代に入りつつあることを認識すべきである。

3. 講演 (発表 20 分間+質疑応答 10 分間)

茂木 創 (当学会理事長 拓殖大学政経学部准教授)

木村 正信 (当学会理事 金沢星稜大学経済学部准教授)

立花 亨 会員 (拓殖大学政経学部教授・経済学科長)

「イスラム金融を通じたアジア・中東産油国間における経済関係の変化と

- 小島 紀徳 会員（成蹊大学）、横佩おさむ（成蹊大学大学院生）
「CO₂固定を目的とした乾燥地での植林と表面流出モデル」 12:40~13:10
4. 懇親会 （地下会場 会議室 002） 13:10~14:00
5. 講演（発表 20 分間+質疑応答 10 分間）
- 齋藤 優子（東北大学大学院生）、劉 庭秀（当学会理事、東北大学）
「小型家電リサイクル制度導入の妥当性分析
-山形県酒田市における実態調査を事例として-」 14:00~14:30
- 劉 庭秀（当学会理事、東北大学）、齋藤優子（東北大学大学院生）
「復興教育支援事業の意義と今後の課題について
-宮城県石巻市の小学校を事例に-」 14:30~15:00
- 角田 晋也（当学会理事）、西村 一（独立行政法人海洋研究開発機構）
「地球環境情報統融合プログラム(DIAS-2):2017年実運用開始に向けた運用体制の設計」
15:00~15:30
6. 講演（発表 20 分間+質疑応答 10 分間）
- 木本 研一、北見 辰男（当学会理事、RIMEP）他
「乾燥・半乾燥地のアルカリ土壌改善」 15:30~16:00
- 安田 八十五（当学会理事、関東学院大学）、白永梅（関東学院大学）
「レジ袋有料化政策の有効性及びレジ袋需要曲線の構造変化の分析と評価」 16:00~16:30
7. 討論（アンケート回収） 16:30~16:50
「農業の位置づけは？」
司会:角田 晋也
8. 総括 角田 晋也（優秀プレゼン賞発表） 16:50~16:55
9. 閉会挨拶 吉野 文雄 副会長 16:55~17:00